
なかよし兄妹りば～す！

HEERO

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なかよし兄妹りば〜す！

【Nコード】

N9877G

【作者名】

HERO

【あらすじ】

『なかよし兄妹』のIFストーリー。立場逆転、真面目な兄が厄介な妹に振り回されるコメディです。

(前書き)

兄と妹、ボケとツツコミの逆転です。

『なかよし兄妹』と違って、全体的に大人しい雰囲気になってます。もはや別の作品となっているのでこんなタイトルにする必要はなかったのかもしれないね。

十九歳の兄はたった九歳の妹から最近よくちょっかいをかけられていた。今日もまた、彼は妹に酷い目に合わされる事となる。

兄の部屋で座ってジュースを飲む妹。不意に彼女の手からコップが滑り落ちた。

「キャッ！」

「どうした！？」

机に向かってレポートをまとめている兄が、椅子をキイツと鳴らしながら妹の方を振り返った。

「ジュースこぼしちゃった」

「おい何やってんだよ、ズボンがビチョビチョじゃないか…！
ったく、お前はジュースをこぼすために俺の部屋へ来たのか？」

妹のちょうど股の辺りがジュースの落下地点。ズボンの濡れてしまった部分だけが色濃くなっている。

「お兄ちゃん…拭いて…」

涙ぐみながら兄を見つめる妹。

兄は「泣かなくてもいいだろ」と言いつつ、タンスからタオルを取り出し、妹の濡れたズボンを拭き始めた。

…その時。

パシャッという音とともに、兄妹の側面を光が照らした。

「な、何だ！？」

即座に首を左へと向ける兄。そして彼は驚愕する。

「カメラ…だと…！」

兄が言うように、壁にはポラロイドカメラがガムテープで貼り付けられていた。

先端はシャッターを切るためのスイッチとなっているのだろう。

カメラからは細いコードが伸びており、妹の手へと続いていた。

「ハッ!」と声を漏らすと、兄はすぐさま立ち上がり、カメラへと手を伸ばす。

が、妹が強くコードを引っ張る事により、カメラは一瞬にして彼女の手の中へと納まった。

「うっへっへ…」

邪悪な笑い方をしながら妹はカメラから出てきた写真を手に取り、兄の方へ向ける。

「くっ…! 不覚!」

写真には妹のズボンを拭いてやる兄の姿が写されているのだが、側面から取られているため妹の脚でその行為が隠れており、事情を知らない人が見ると『兄に股間をまさぐられて妹が泣いている』という大問題な様子を想像させてしまう仕上がりとなってしまうている。

「お前、何が目的だ!!」

「これでもうお兄ちゃんは私のいいなりだね」

「くっ、外道め…!」

妹は写真を懐にしまった。

(まずい…まずいぞ…あの写真はまず過ぎる! あれは俺を操るコントローラーとなり、同時に妹の行う嫌がらせの免罪符という役割も果たす…)

これから先起こりうることを想像しながら身震いする兄。

「お兄ちゃん!」

(きた!!)

「プリン!」

「は?」

「一緒にプリン買いに行こ!」

「俺に買わせる気か…!!」

「お兄ちゃんはお兄ちゃんなんだから当然でしょ?」

兄は少し考えた後、「分った」と言葉を返した。

「じゃあ支度するから部屋から出てってくれないか？」

「うん！」

兄に言われ、妹が背を向けたその時だった。

「キャッ！」

兄が背後から妹の体を押さえつけ、服の中へと手を突っ込む。

「写真よこせ、こんガキャー!!」

「イヤァァァー!!」

演技なのか、本気なのか、大声で泣き叫ぶ妹。

「うるさい！泣きたいのはこっちだ！毎度毎度ふざけた事しやがって!!」

妹の服の中を兄の手が激しく動き回る。

そんな光景を呆然と見つめる一人の人物がいた。

「あんた…実の妹に何してんのよ…」

母である。母が部屋のドアを開き、兄の信じられない行動の前に立ち尽くしている。

「い、いや、これにはわけというものが…」

「こおおおおの、馬鹿息子おおおお!!!!」

母の強烈な当身をくらい、兄は後方へと派手に吹っ飛んだ。

「な…なぜ…こうなる…」

兄は力尽きた。

「お兄ちゃん…大丈夫…？」

母に負わされたダメージをベッドに横たわって癒す兄の元へ、妹が寄ってきた。

「何が『大丈夫?』だよ…」

憤った感じの口調で口を開く兄。

「何がって、お母さんの当身くらったでしょ?」

「そういう意味じゃなくて、元はと言えばお前が悪いんだろって話だよ!!」

「ご、ごめんなさい!!」

声を荒げる兄に対し、怯えるように謝ると、妹はポケットから写真を取り出し、それをビリビリと破り始めた。

「これがあれば、また相手してくれると思ったのに……」

「えっ!!?」

兄は上半身を起こし、バラバラになってゆく兄妹の写真を見つめた。

（そういえば…大学に入ってからというものの、講義やレポート、それからバイトに追われてばかりでこいつと全く遊んでやれてなかった……）

素早く、そして優しく妹を抱き寄せる兄。

「そっか…『プリンを買いに行こう』ってのは、プリンが食べたいんじゃないくて、『俺と一緒に買い物』がしたかったんだな? ごめん、分かってやれなくて…」

「お兄ちゃん…」

妹は微笑を浮かべ、兄の胸にそっと両手を当てた。

「うぬぼれるな!!」

兄の体が妹の手の平によって押しやられる。

「えっ!!? えっ!!?」

まさかの展開に動揺を隠しきれない様子の兄。そんな兄を放って妹は扉に向かい走っていく。

「お兄ちゃん」

ドアノブを捻りながら妹は振り返った。

「プリン!」

「は?」

「何個買ってくれるの?」

「え、えっと……お前が食べきれんなら何個でも……」

「本当！？　じゃあ覚悟してよね！！」

妹は扉を開け、「着替えてくる！」と言って自分の部屋へと駆けて行った。

一人残された兄。おもむろにベッドから立ち上がると、頭を掻きながら口元を緩めた。

「まったく、素直じゃねえよな」

兄は椅子にかけてあった上着を羽織ると、軽い足取りで部屋を後にした。

(後書き)

今回はちよつとツンデレ要素が入ってしまいました。そしてブラコン。イタい：^^；

『なかよし兄妹』や『英雄兄妹』の妹とは全然キャラが違っていましたが、私はこっちの妹の方が好きかもしれません。こっちの方が子供っぽいからかな？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9877g/>

なかよし兄妹りば～す！

2011年10月3日19時58分発行